



「よいよ未来の創造」

「情熱」「絆」「感動」

発行 令和5年12月22日

「己に厳しく 人に優しく」

波佐見町立波佐見中学校

校長 酒井 一男

終業式

12月22日（金）に表彰伝達式、終業式、生徒会役員任命式を実施しました。表彰伝達式では、郡中体連新人大会で優勝したバドミントン部男女（個人戦入賞含）、バスケットボール部女子、卓球部女子（個人戦入賞含）、県新人大会女子1年走幅跳2位の福崎葵さん、九州少年軟式野球大会準優勝及び県新人大会3位の野球部、税の作文優秀賞の山本夏帆さん、Tosu Piano Step ステップコース上級金賞の重富詩菜さんを表彰しました。終業式では、1年生の松尾麗子さん、2年生の岡村琳華さん、3年生の細野遼馬さん、放送委員長の宮田拓真さんが2学期を振り返り成果や課題について話をしてくれました。校長からは2学期を振り返り、以下の話をしました。

体育大会や文化発表会の取組から多くの感動をもらった。各集団のまとまりと成長を見られ、絆が深まっていくのを感じた。また、地域の皆様からも高い評価をいただいた。運動面や文化面での活躍が多く、とても素晴らしく、誇りに思う。生徒会活動も役員を中心に積極的に活動し、活性化させてくれた。役員選挙や専門委員長・副委員長の面接でも、「よいよ未来波佐見中を目指し、みんなのために頑張りたい、役に立ちたい」という思いや意見を訴えてくれ、頼もしく思うとともに期待が膨らんでいる。みんなで協力して、更に素晴らしい波佐見中にしてほしい。

学習面や生活面では、自分と真摯に向き合い、長所を伸ばし、課題を改善するための努力をした人が多かった。伸び悩んでいる人もいるが、「継続は力なり」と言う。自らの可能性を広げ、よいよ未来を創り出していけるように努力を重ねてほしい。まずは、冬休みを利用して弱点の克服に取り組んでほしい。

3学期は、次年度に向けた準備の学期。3年生は進路実現に向け、覚悟を決めて努力してほしい。2年生は最上級学年として、学校のリーダー、良き手本となる準備を、1年生は中堅学年として上級生のサポートと新入生の手本となる準備をしてほしい。「一年の計は元旦にあり」という。令和6年の目標や抱負を定め、新しい年を新たな気持ちで迎えよう。令和6年の飛躍を期待している。

東大生・京大生との交流

12月20日（水）に、東京大学（大学院生含む）2名・京都大学1名の3名の学生と2年生が交流しました。生徒たちは、小・中学生や高校生の時の経験や悩み、人との出会い、自分との向き合い方などに関する話を聞き、生き方について考える機会となりました。放課後にも図書室で交流した生徒もいました。これからの生活や学習の参考となる話ができただのではないかと思います。考えたり感じたりしたことを今後に活かしてほしいと思います。さらに、19:00からは総合文化会館小ホールで「親子でつながるコミュニケーション」というテーマで、東大生2名の経験をもとに、親子の関わりについての討論会がありました。保護者だけでなく、生徒の参加もあり、時間一杯の討論となりました。参加して下さった保護者の皆様、ありがとうございました。3月にも東大生・京大生との交流が計画されているようです。是非参加してみてください。



生徒会専門委員長・副委員長の選出

先日の選挙で選出された生徒会役員が指名する専門委員長と副委員長の選出が行われています。12月15日から19日までの期間に立候補があり、20日と21日に面接会を実施しました。今後、面接をもとに選出されますが、立候補した生徒は、「みんなのために頑張りたい、役に立ちたい、よいよ未来波佐見中になるために努力したい」という思いや意見、考えを訴えていました。とても頼もしく感じました。



※生徒・保護者及び地域の皆様、よいお年をお迎えください。